

新中日ビル7月末竣工 社長の井戸義郎さんに聞くその魅力

「楽しみ、憩い、働き、集うビルを」



井戸 義郎（いど よしろう）1955年4月生まれ、名古屋市出身。78年慶応大学経済学部卒中日新聞社入社。東京本社や名古屋本社の広告局長を経て2013年取締役広告局長、14年取締役広告担当、17年常務取締役広告担当、20年から同社相談役、中部日本ビルディング株式会社社長。

名古屋一の繁華街である栄地区の中心にあり「中日ビルで会いましょう」という合言葉で親しまれてきた中日ビルがよいよ7月末に竣工します。向かいの久屋大通公園とも相まって脱炭素時代にふさわしい快適で楽しみがあふれる憩いの場として来春の開業が待ち遠しいビルです。中部日本ビルディング株式会社社長の井戸義郎さんにその魅力を存分にお聞きしました。

（聞き手の塚本隆編集長の挨拶から）

塚本 このビルの建設コンセプトについて教えてください。

井戸 中日ビルは、1966年の開業から半世紀、名古屋・栄のランドマーク、シンボルとして親しまれてきました。飲食店街やショッピング、劇場、カルチャースクールなどが集まり、多くの人の待ち合わせ場所として人々の記憶に残るビルでした。そんな旧ビルの記憶と遺産を受け継ぎ、先進の技術と安全性を兼ね備えた「多くの人が楽しみ、憩い、働き、集う」高層ビルを目指してプロジェクトを進めてきました。

塚本 現時点でのテナント情報などを教えてください。

井戸 地下1階がマルシェやオフィスワーカー向けのクイックな飲食とコンビニやドラッグストア、1階はライフスタイルブランドと歩道に面したカフェ、2階はブックラウンジや趣味の店、3階はカジュアルな接待にも利用できる飲食店とスポーツを応援する企画店舗エリアも設けて幅広いニーズに応えます。4～5階に

は各道県の事務所が集まる「全国物産観光センター」が入り、クリニックや栄中日文化センターも入居します。6階はセミナーや展示会などのビジネスイベントから、ライブコンサートなどまで、幅広い需要に対応可能な多目的ホールと大小8つの会議室からなる「中日ホール&カンファレンス」を設けます。7階の屋上広場とレストランは久屋大通公園の眺望を楽しめる憩いの場となります。

9～22階はオフィスフロアです。24～32階には三菱地所グループのロイヤルパークホテルズアンドリゾーツが展開する「ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 名古屋」が出店し、「中国飯店 春秋」の出店も決まっています。

塚本 各県事務所は、旧ビルの目玉でもあり、観光情報などを親切に教えてもらえました。再びテナントとして入るのは嬉しいニュースです。

井戸 ありがとうございます



中日ビル

これからも、まちとサカエる。

中日ビルの新しいロゴマーク